



北九州は

学生の活躍が熱い!!

●こんなに実習場所がある!!

地図を見て驚いた方もいたでしょう。
実は地域創生学群にはこんなに地域の方と関わ
りながら活動ができるフィールドがあるのです!!

●第2号には何を書いているの?

今回は、地域創生学群で活動しているそれぞ
れの実習の注目活動を取り上げてみました!

Webサイトや地創図鑑、インスタには載って
いない地創の活動を覗けるチャンスです**

アンケートも載せているのは是非読んだ感想をお
聞かせください!!

●地創の情報がいち早く得られる!



↑WEBサイト



↑公式Instagram



↑YouTube

●第1号はここから!!



左のQRからチェック✓各実習の
概要について詳しく書いています。

1号も合わせて読めば地創の実習
について理解が深まること間違い
なし!!

「できない」を「できる」に変えるスポーツ

●アダプテッドスポーツ実習とは？

アダプテッドスポーツ実習は「アダプテッドスポーツ*」を用いて地域の課題解決を目指しています。具体的な活動として、「北九州障害者スポーツセンター」アレアスでエンジョイスports教室の企画・運営、社会福祉協議会と連携して地域のサロンやウェルクラブでの高齢者の健康増進や運動機会の提供、子どもの福祉教育や情操教育*のイベントを実施しています。

※アダプテッドスポーツとは、年齢、性別、体力等に関わらず誰でも楽しむことができるよう、ルールや用具を工夫し適合(adapt)させ、「誰でも・楽しく・安全に」できるスポーツを指します。

※情操教育とは、相手を思いやる気持ちや知的好奇心などを自ら育むための教育です

特集！！

市民センターに学生たちが出張活動へ！！

■小学校や市民センターで体験会を実施！

実習生は小倉南区社会福祉協議会からウェルクラブやサロンへの依頼をもらい、小倉南区の小学校や市民センターでアダプテッドスポーツ体験を実施しています。各地区の方々の希望の競技を体験会に取り入れることができるところが魅力です。

■サロン活動のセミナーにも参加！

サロン活動に参加されている方々と一緒に、活動をさらに充実させることを目的として開催されるセミナーにも参加しています。セミナーでは改めてアダプテッドスポーツの良さを再確認したり、実際に競技であるポッチャをみんなで体験したりしました。早速、ポッチャを気に入った参加者の方から次のサロン活動でも貸し出してほしいとの声が！！このような声をかけてもらい、実習生が出張活動に参加しています。

■多世代と関わる上で気を付けていること

様々な世代に合わせて接し方や行うスポーツを変えたりしています。参加者の方と積極的に世間話やスポーツなどの話をして相手の緊張をほぐすようにしています。



2025. 01.18

セミナーでのポッチャ体験の様子

さらに子どもたちと接するときは、視線を合わせ、一人の子ではなく、出来るだけ沢山の子達と会話することを意識しているそうです。セミナーでも実習生と参加者の皆さんが楽しそうにお話をされていました！！



2024.7.28

エンジョイスportsデー卓球バレーの様子

エンジョイスportsデー

月に一度「北九州市障がい者スポーツセンター」アレアスではエンジョイスportsデーを開催しています。実習生はこれまでサポート側だったのが、2024年度からは企画・運営に携わることになりました。実習生が参加する人に合わせたスポーツを考えているところが注目ポイントとなっています！



参加者に話を聞いてみました！

サロン活動の参加者に実習生の印象や活動の感想をお伺いしました。

◇参加者の声

「学生さんが来てくれる時は孫に会ったような気分になりますし、学生さんが新しいゲームを提案してくれることで活動の幅が広がっていると感じています。」

「普段から積極的にコミュニケーションを取ってくれてとても好印象です。学生さんと一緒にやって楽しかった競技は卓球バレーです。今日は初めてポッチャを体験しましたが、ルールも簡単でとても楽しかったです。これからも継続的にサロン活動に来てほしいと思っています。」

広報実習生からひとこと

アダプテッドスポーツって何？という疑問からのスタートでしたが、スポーツは工夫次第で誰でも簡単に楽しめるものになるという面白さを体験させていただきました。また、アダプテッドスポーツを体験した方々は口を揃えて、「またやりたい」「また学生さんに来てほしい」とおっしゃっていて、普段から積極的に参加者の方々と関わっているのだなと感じました。アダプテッドスポーツ実習のこれからの活動にも期待したいです。

(広報実習 武田)

「学び+楽しさ」をゼロから無限大に

●ESDプロモート実習とは？

あらゆる世代に向けたESD・SDGsの周知と実践活動の推進（プロモート）を目的に活動しています。主な活動は北九州ESD協議会のサブコーディネーターとして行う「ESDツキイチの集い」とSDGsに関する実践者へのインタビュー、イベントでの登壇などです。多世代が参加できる活動を展開しESD・SDGsに取り組むことの重要性を日常でも実践できるよう、みなさんと学び、取り組んでいく実習です。



2024.8.9 公害問題についての新聞作成のワーク

長期にわたる挑戦！ 学びと楽しさが交差する ESDツキイチの集い

■「ESDツキイチの集い」 50回目の節目へ

2024年12月21日に行われた「ESDツキイチの集い」で50回目を迎えたESDプロモート実習は、SDGsの知識や意識を地域や社会に広めることを目的に持続可能な社会の実現に向け、活動を行っています。地球沸騰化や超高齢社会といった課題が進行する中、SDGsを基盤とした保護活動の重要性を「自分事」として捉えてもらうため、伝え続けることを重視しています。

■ゼロから作る「学び+楽しさ」

「ESDツキイチの集い」では、参加者にSDGsをわかりやすく楽しく学んでもらうことを目的に、企画段階からさまざまな工夫を凝らしています。内容は「学び+楽しさ」を軸に、家に帰ってからでも実践できるSDGs活動を伝えられるよう考案。「楽しい」「これいい！」と思えるアイデアを大切に、内輪だけの取り組みにならないよう参加者視点で企画を進めます。また、イベントはすべてゼロから企画・運営を行い、地域とつながる充実した場づくりを目指しています。

■8月ESDツキイチの集いへ参加！



2024.8.9 藍島での海岸清掃

清掃や公害問題のワークを行い、環境問題について交流を通じて理解を深めました。ESDを通した持続可能な社会の作り手を育む活動を今後も続けます。

多様なつながりで 生まれる学び

ESDプロモート実習では、地域の方々だけでなく、企業やNPO法人、ESD協議会など多様な組織と連携し、イベントを企画・運営しています。形のないイベントをイチから作り上げる達成感や、参加者からの「楽しかった」「学びが深まった」といった声やりがいとなっています。



参加者に話を聞いてみました！

第48回ESDツキイチの集い「もっと知りたい北九州！！～海の未来を考えよう～In藍島」の参加者である高校生・60歳以上の北九州市在住の方にイベントの感想を伺いました。

◇60歳以上も学べる大学！？

年齢関係なく「学び」を得ることができました。多世代と関わるコミュニケーションの場は楽しく、とてもありがたいです。

◇学びから行動へ！！

実際に清掃活動を行うことで環境問題を自分事として捉え、学んだことを日常にどう生かすか考える場となりました。

広報実習生からひとこと

取材を通して印象的だったのは、年齢に差のある参加者が一緒に活動する中で、さまざまな考えや学びを持ち寄り、交流する姿です。このような多世代の交流が、学びの豊かさをさらに広げていると感じました。今後もこの活動が地域に広がり、持続可能な社会の実現に貢献することに期待しています。

(広報実習 北川)

どっぶり浸ろう！～猪倉実習のスヌ～

●猪倉実習とは？

農業を通して住民の方と関わり、地域活性化をしていくことを目的に北九州市八幡東区高槻・猪倉地域を拠点に活動を行っています。主な活動内容は、毎週末シフト制で実習生が宿泊を伴う農作業を実施することです。住民の方と共同で作業を行う畑や、地域の方と協力しながら、地域のブランドとなる芋焼酎の原料を作る畑、大学生が主体となって耕作をしている3つの畑があります。また、地元のイベントに出店し、「ほたるの里」という芋焼酎の生産・販売も行ったり、連携先とバーを開いたりと様々な活動をしています。猪倉実習生が何を学んでいるのか、潜入してみました！

地域の人と共に 創っていく、学んでいく。

■畑だけでなく、猪倉という地域を知る。

普段から住民の方とのコミュニケーションを大事にしている猪倉生ですが、猪倉地域の住民の方とも親密に交流しています。その結果、猪倉実習生が農作業を行っている畑までの道に草が生え、通りづらかったところの草を刈ってくれた方や、出店の際、足りない分の野菜を補ってくれたことがあったそうです。この話だけでも、実習生が地域全体と信頼を築けていることが伝わりますね！

■毎日が学び！1つ1つを丁寧に。

野菜を育てたり、土を耕したりなど農作業には知識や技術が必須です。自分たちだけで進めず、猪倉実習と特に関わっている里山会の方に相談しながら作業を行っています。住民の方と共に行う農作業は毎日が勉強・発見の連続です。

■信頼されているからこそ出来ること!!



2024.8.24 土を耕している様子

写真は1年生が作業をしている様子です。扱いがとても難しい耕運機がけも、住民の方や先輩に教わりながら楽しく作業をしていました。

入って月日が浅い1年生も作業を任されており、それは先輩達が築いた信頼の証だと感じました。チームワークの良さが伝わってきます。

住民の方からスイカの差し入れが！作業の際にいただくスイカは格別美味しく疲れた身体に染みわたります。美味しいものを食べるとエネルギーが湧きますね！今見ても、スイカが美味しそう・・・。



2024.8.24

住民の方からの差し入れを食べている様子

とことん畑に寄り添います

週末は畑のすぐそばにあるサテライトに住民として地域に入り込むという想いから宿泊しています！宿泊した時には、皆でご飯を食べたり、花火をしたり。普段実習生同士仲が良いのはこのお陰なんだとか！夏休みは火曜・木曜・土日に農作業を行っており畑にとことん寄り添う猪倉実習なのでした。



猪倉の可能性は無限大！

取材をする中で、猪倉実習では「コミュニケーション」を大事にしていることが分かりました。そのおかげでこんなエピソードもありました。

◇猪倉の潜在価値を見つけて商品化！

猪倉には梅の木が自生しており、住民の方が栽培していました。しかし高齢化が進んだことで管理が疎かになってしまい、放棄されるように。貴重な地域資源をどうにかしたい、そうして生まれたのが「感謝の梅酒いのくら」です！連携先の無法松酒造さんと連携し、収穫した梅の収穫代は、なんと全額町内会に寄付しています。20歳になったら飲んでみてください！

広報実習生からひとこと

私たちは主に大学内で活動していますが、猪倉というフィールドに変わるだけで、こんなにも関わる方や活動が違うのかと驚きました。この取材を通して地域創生には様々な方法があり、もっと多様な視点を学びたいと思いました。この記事を読んでもらった方が少しでも猪倉実習について気になっていただければ幸いです。猪倉実習生の皆さん、ありがとうございました！

PS：これからもよろしくお祈いします!!

(広報実習 江崎)

「地域」を「食」で活性化！？

●北九州食スマイル実習とは？

「スマイルを広げる」というコンセプトのもと、「食の楽しさ・大切さを多くの人に広め、子どもたちの心の拠り所をつくる」ことを目指して活動しています。北九州市内の計5ヶ所で活動を行っており、子どもから高齢者まで幅広い世代の方々との関わりを通して、礼儀やマナーだけでなく、その場で求められる適切なコミュニケーション能力を身につけることができます。また、学内外での出店や出張講座も行い、自分たちで企画立案から当日の運営までを行うため、相手のニーズに合わせて寄り添う力も身につけています。このように日々、試行錯誤を重ねながら毎年新しいことにチャレンジし続けています。



2024.10.27 北スマ学外出店

遊びと食を通じて 地域・子どもたちとの 関係性づくり！

■大学生が子ども食堂のお手伝い！

北九州食スマイル実習では、定期的に市民センターに訪問し、子ども食堂のお手伝いを行っています。実習生の主な役割は、子ども食堂が始まるまでの子どもたちの遊び相手になることです。子どもたちが来る前に道具の準備や、内容の計画を丁寧に行い、訪れる子どもたちが楽しむことができるような環境づくりが行われていました。また、なかなか場の雰囲気や溶け込むことのできない子どもに対して、実習生自らが動き溶け込むことができるようにアプローチを掛けていた様子も見られました。

■地域で学ぶ食の大切さと信頼関係

実習生と遊び終わった子どもたちは、次々に食事を取ります。参加者は幅広い年齢層の方たちに加え、その日から参加する人も温かく迎え入れられており、実習生もその一員です。無償とは思えないほどのバランスの取れた食事のありがたさや地域の温かさを感じることができます。また、子ども食堂が終わった後、実習生がお米やお菓子などを頂いており、日ごろから信頼関係が構築されているということが分かりました。



2024.11.6 子ども食堂「絆」

地域に温もりをお届け！ 大学生が肉まんの出店！？

10月下旬に開かれた企救丘市民センターの文化祭にて、北スマ生による学外出店が行われました。出店内容は「きたすまん」という可愛い焼き印が付いた肉まんの販売。当日は多くの地域の方で賑わっており、ハロウィンの時期でもあったことから、子どもたちに向けたお菓子の配布なども行われていました。



学生・地域の人に話を 聞いてみました！

実習生に活動中に心がけていること、きたすまんを購入された方に感想をお伺いしました。

◇実習生が心がけていること

- ・販売だけでなく、お客さんや市民センターとのコミュニケーションを大切にしています。
- ・子どもたちと関わる時は、目線の高さや声掛けを一番に考えて行動しています。

◇きたすまんを購入された方の感想

- ・学生が主体となって出店を行っていることは凄いなと思います。もっと色んな事に挑戦してほしいです！
- ・外部から来ているとか関係なしに、地域で自由に活動して存在を世の中に広めてほしいです。

広報実習生からひとこと

北九州スマイル実習の学生は、とにかく活動中の笑顔が素敵だと感じました。子ども食堂、学外出店両方に共通して声のトーンや目線の高さ、話し方などを丁寧に心がけているという事がひしひしと伝わってきました。また、イベント当日にトラブルが起きたとしても、臨機応変に対応していた姿も印象に残っています。これからの活動でも、地域と食をつなぐために頑張ってください！！

(広報実習 五反田)

ビジネスで地域創生を追及？！

●キタキューブプロモーションとは？

「COMPASS小倉」を受け入れ先として、ビジネスをベースとした企画を考案し、起業・事業運営を行っています。2024年度は、5つの媒体で活動を行っており、「キタプロカフェ」以外の媒体は学生自身が企業立案を行う「ビジネスプランコンテスト」で選ばれた企画です。このコンテストは毎年5～6月に行われています。

特集！

5つも存在するプロジェクトとは？！

2024年度にビジネスプランコンテストで選ばれたプロジェクトはどのようなものなのでしょうか？実際に4つのプロジェクトを紹介します！（一部例外）



■キタガチャ（2023年度採択）

関門海峡地域の方言をロゴにした缶バッジや、名物のふぐや瓦そばなどをかわいいイラストにしたものなどをガチャという形で販売しています。このプロジェクトは昨年度のコンテストで採択され、今年度からは実習全体で行う全体企画として取り組んでいます。

■キャンパスリユース

大学生の勿体ないをなくすことを目標に、学生から集めた不要なものを学内でリユースショップのような形で格安で販売しています。

■kita pick

北九州の緑化計画の課題を解決したい、子どもたちに緑と触れ合う機会を提供したいという思いから、始まったプロジェクトです。現在、Instagramで予約できるようになっています。

■つまみ食い大作戦in旦過市場

ぬか炊きなど、北九州の名物や魅力を発信したい、旦過市場独特の買い物空間が好きだったことから始まったプロジェクト。



参加者に容器と商品を交換できるチケットを購入してもらい、市場内の参加店舗12店舗をまわってオリジナルオードブルを作ってもらおう企画になっています。

2024.10.17 つまみ食い大作戦in旦過市場
学内出店の様子



2024.12.15 ちそう祭りで出店している様子

北九州LOVEを高めたい！

キタプロには『キタプロカフェ』という活動があり「北九州LOVEを高めるワクワクするカフェ」をコンセプトに実習生が毎年自ら商品の制作・販売までを行っています。今年度のイチオシ商品はホットサンド。ツナやハムの入った惣菜系から、あんこやお餅の入ったデザート系まで沢山の種類があります。今年度はキタプロカフェのテナントを借りることを目的に全体企画にすることで出店頻度を増やしたそうです。



購入者に話を聞いてみました！

「キタプロカフェ」でホットサンドを購入した方に味やプロジェクトへの感想を伺いました。

◇さつまいももち購入者

デザート系のホットサンドで甘くておいしかったです。惣菜系のホットサンドと一緒に食べても甘さが引き立ってよりおいしいと思いました。

◇ハムチーズ購入者

チーズがとろけて美味しかったです。大学生がこのような活動を行うことで地域活性化にも繋がりそうだと感じました。八幡駅周辺など市内の様々なところで開催してほしいです。

広報実習生からひとこと

キタプロは、地域創生とビジネスをうまくかけ合わせた企画になっており、地域活性化のみならず、関係人口の創出にも寄与しているように感じました。毎年、ビジネスプランコンテストによって選ばれたものがプロジェクトになっており、様々な方向から北九州のことが好きな人を増やしていると思います。

これからも、北九州市を多種多様なプロジェクトで盛り上げて行ってほしいと思います！

（広報実習 溝上）

大学生が企画・運営！子どもと楽しく運動力UP

●キッズトレーニング実習とは？

北九州市の子どもたちを対象に、幼児期の体力向上と運動機会創出を目指し、「キッズトレーニング教室」(※以下、教室と略す)と呼ばれる年間20回程度のスポーツ教室を運営しています。2024年度からは活動範囲を拡大し、地域の幼稚園での運動教室を開催しました。1・2年生20名が実習担当教員の指導のもと、運動指導の勉強会や新たな運動遊びの考案を行い、子どもが楽しみながら運動能力を高められるよう工夫して、教室を開催しています。教室の企画・運営を学生主体で行い、マネジメント力や指導力、幼児理解の専門知識を身につけることができます。



2024.10.29 忍者ゲームを参加者全員が楽しむ様子

北九州市立大学の体育館で子どもたちが運動を??

■大学の体育館に子どもたちが!?

毎週火曜日に北九州市立大学の体育館にて、地域の子どもたちを対象とした教室を学生が主体となり、企画・運営をイチから行なっています。季節に合わせた教室の装飾にもこだわっているのが、魅力となっています。

■子ども目線に立ったからこそその配慮!

終始楽しい教室ではありますが、対象が子どもたちのため徹底された配慮がされています。まず、各運動の合間で必ず水分補給を促し、運動量が多い子には実習生が「もうちょっと水を飲んでおこうか」といった声掛けを行なっていました。次に、子どもたちの体調をこまめに確認し、体調の悪い子がいた場合は、手が空いている実習生が迅速に対応しています。さらに、子どもたちに対して「事前に爪を切っておいてください」という注意喚起を行うなど安全面はかなり徹底されています。

■事前に学生だけでスポーツ教室を?

この教室を開催するにあたって、子どもたちが北九州市立大学の体育館にやってくる2時間前に学生だけで模擬教室を行なっています。



2024.10.29
子どもたちにお手本を見せる様子

この模擬教室では本番の教室に向けての教室全体の流れや、各運動を事細かに確認しています。円滑に教室が進むように工夫されています。

幼稚園にも実習生が?!

2024年度からは北九州市立大学の体育館だけに留まらず、地域にある幼稚園にも実習生が足を運び、出張キッズトレーニング教室という形で活動の範囲を広げています。大学で行う教室とは異なり、事前の打ち合わせや出張先の幼稚園に合わせた臨機応変な対応など、難しいことも多くありますが、北九州市内の子どもたちに運動機会を提供できるように活動しています。



実習生に話を聞いてみました!

教室を企画・運営をし、リーダーを務めた実習生の方に感想を伺いました。

◇子どもたちが充実した時間を過ごすために

教室を進める中で、「走・投・跳」の力を測るテストを実施し、テスト記録の向上を意識した運動遊びの考案をしたり、家や幼稚園などでもできる運動遊びを発信したりしています。

このように、私たちは、子どもたちが楽しみながら自然と運動能力の向上や運動機会の創出につながるように工夫しながら、教室の企画・運営を行っています。

広報実習生からひとこと

子どもたちの運動機会減少は、子どもたちの成長を妨げているという課題がある中で、このような運動教室があるというのは親世代からの需要があることだと感じました。また、この運動教室に参加する親御さんたち同士の交流があるというのも地域をつなげるとても良い活動であると取材を通して感じる事ができました。キッズトレーニング実習のこれからの活動にも期待したいです。

(広報実習 吉瀬)

現役地創生が学群の(リアル)を発信！！

●地域創生学群広報とは？

地域創生学群に在籍する学生ならではの視点から広報戦略を考えて高校生や地域の方々に地創の魅力伝えるために広報活動を行う実習です。具体的にはInstagramやオリジナルwebサイトの運営、地創の学びの解説本である地創図鑑の発行、オープンキャンパスの企画運営などを行なっています。また、潜入取材という地創の実習活動に焦点を当てた取材活動も行なっています。

この新聞を担当しているもの私たち地域創生学群広報です。



2024.7.14/15オープンキャンパス

特集！

地創のオープンキャンパスは 学生が主導で活動中??

■オープンキャンパスは学生の手で！

地域創生学群のオープンキャンパスの企画運営は広報実習が担っています。学生は学群紹介やグループワークの内容を考えたり、高校生の個別相談の対応を行います。また、当日の飾りつけの準備や広報用ポスターなども広報生自らの手で作成しています。

■学んでいる人でないと学群の良さは伝えられてない！?

オープンキャンパスと言えば、大学教員が高校生の前で話している姿が思い浮かぶ人も多いのではないでしょうか？しかし、地域創生学群では教員ではなく学生が中心となってオープンキャンパスの企画を行っています。それは、『教員は教えている側であり、学群の良さは学んでいる学生でしか伝えることができない』という考え方を地域創生学群の教員が考えているからなんです。

■もう一度この学校に来たいと思ってもらえる オープンキャンパスをつくる



2024.7.14/15オープンキャンパス

活動目的としては、地域創生学群の学びや雰囲気を感じてもらい、高校生にとって大学選びの参考にしてもらいたいと思い活動しています。

せんにゆうしゅざい ちそうしんぶん

潜入取材と地創新聞

2024年度から潜入取材の活動に力を入れています！潜入取材とは同じ学生目線の視点から各実習の魅力地域の方に発信するための活動です。実際に各実習の実習活動に参加してもらい、地域の方や実習生に取材を通して広報生が感じたことを【地創新聞】として発行しています。



学生に話を聞いてみました！

オープンキャンパスでリーダーを務めた学生の方にオープンキャンパスを運営した感想を伺いました。

◇リスクマネジメントが身に付く!?

私はリーダーとして活動する中でリスクマネジメント力が身についたと思います。去年のオーキャンの経験と振り返りを分析し、練習の時から常に本番当日を考えた動きを意識して行動出来たからです。

◇経験をつなぎたい!!

イベント運営のリーダーの立場を経験したことを活かしてアドバイザーやコンサルタントなど悩みを解決し経験を積みながら、その経験を繋いでいけるような人になりたいと思っています。

広報実習生からひとこと

高校生を経験した人は参加したことがある人もいるであろうオープンキャンパスの企画運営を広報実習の学生が5ヶ月前から地道に準備を重ねて当日の本番を迎えています。取材を通して印象的だったことは高校生だけでなく、保護者の方からも「この学校に自分が通いたい!」と言っていただけのことでした。広報実習のこれからの活動にも期待したいですね。

(広報実習 三坂)

小倉愛は∞ 学生の力でまちを活性化!?

●小倉活性化プロジェクト実習とは？

「小倉のまち」の活性化を図ることを目的として活動しています。具体的には「idea+」・「Kokulike」・「greenbird」の3つの媒体があり、実習生はこの中の1つに所属しています。

また、媒体活動以外にも街中を案内する「まちなかコンシェルジュ隊」や講師の方を招いて講座を企画・開催する「夜会」など、実習メンバー全員で取り組む活動も行っています。

特集！

小倉のまちで 学生が夜会を開催??

■**夜会とは?** 小倉のまちに出てもらふことを目的として、若者をターゲットに小倉のまちで講座を開催しています。元々は「we love 小倉」が主催していた活動で、現在は小倉活性化PJ（プロジェクト）実習も一緒に活動を担っています。2024年11月時点で139回の夜会が終わったところで、これまでに、韓国語講座やかぎ針編み講座など幅広いジャンルの講座が開かれています。

■段取りも自分たちの手で!?

小倉活性化PJ実習では、夜会を開催するために小倉のまちで活躍されている講師の方を探すことから始まります。Instagramなどで情報を収集し、メールでアポイントメントを取るそうです。それだけでなく、参加者への連絡や開催場所探し、広報など、講座開催までの全ての工程も自分たちの手で行っています。1つの夜会を開催するために約2ヶ月前から準備を始めています。これにより、イベント準備力が身に付くだけでなく、シビックプライド（地域への誇りと愛着）の醸成をすることができたそうです。

■8月夜会



2024.8.10 かぎ針編み講座

8月夜会のかぎ針編み講座。今回は花のコサージュと髪飾りを作りました。この2つは初心者にも優しい、鎖編みだけで作ることができる作品です。時間が経つとともに、編むスピードが上がり、最終的には綺麗な作品を完成させることができました。

■11月夜会

11月夜会は貼絵講座。トレーシングペーパーに絵の具で色を付け、型に沿って切り抜いて、のり付けすることで作品を完



2024.11.30 貼絵講座

成させました。実習生が参加者と積極的にコミュニケーションを取っており、終始、和気あいあいとした雰囲気の中で講座が進んでいました。一人一人、好きな色や台紙を選び、素敵な作品を完成させることができました。

まちなかコンシェルジュ隊

まちなかコンシェルジュ隊は小倉に来る人をおもてなしすることを目的に活動を行っています。この活動はコロナによって中止されていましたが、今年度から復活させることができたそうです。小倉城やモノレール、旦過市場など小倉にちなんだ被り物と一緒に活動しているので、見かけた際はぜひ声をかけてみてください。



夜会で講師を務めた方に話を聞いてみました!

8月夜会（かぎ針編み講座）で講師をされた方に講師を務めることになったきっかけや夜会の感想を伺いました。

◇講師を務めることになったきっかけは？

実習生から依頼メールが届いたことがきっかけです。普段は主婦の方や高齢者をメインに自宅やカルチャーセンターで講座を開いています。大学生に教えたことはなかったため、良い経験になりそうだと思います。依頼を引き受けました。

◇夜会の感想

実習生が主体となって行っていることに感激しました。実習生同士の仲が良いことが講義全体の雰囲気の良さにつながっていると感じます。

広報実習生からひとこと

取材を通して、小倉活性化PJ実習生のコミュニケーション能力の高さの秘訣に気づくことができました。それは観光で小倉を訪れた方や講座の参加者、講師の方など、活動の度に新しい人と出会うからです。その度にメールでやり取りをしたり挨拶に伺ったりすることで円滑な実習運営に繋がるだけでなく、コミュニケーション能力を身につけているのだと思います。（広報実習 今村）

コミュスポ×〇〇！生涯スポーツを支える

●コミュニティスポーツ実習とは？

「北九州ウォーキング協会」・「北九州市レクリエーション協会」の地域の団体と連携しながら、大学生ならではの視点を活かし、新たなスポーツの価値を提供することによって地域活性化を目指しています。北九州市が推進する「生涯スポーツ社会」に寄与し、より強固なコミュニティづくりを目標に活動しています。具体的には、ウォーキングイベントの企画・運営補助、ニュースポーツやオリジナルスポーツを活用したイベントの開催・運営補助を行います。また、これらの活動を踏まえ、北九州市民により多くの運動機会を創出・提供することや、これまでにない、新たなスポーツの価値を提供しています。

けではなく、地域の方々と一緒に考えられるよう行動しています。参加したイベントでは、運営側のお手伝いは勿論、参加者側として、地域の方と会話することを心掛け、コミュニケーションによって効果的なアプローチ方法や地域に求められる活動を分析しています。



2024.11.4 北九州市民スポーツ大会

特集！ 地域との連携によって 理想のコミュニティを実現！

■他には無い地域との連携

コミュニティスポーツ実習では、2023年度に引き続き多世代交流の創出やスポーツを通じた地域住民の生きがいづくりを目的に「北九州ウォーキング協会」・「北九州市レクリエーション協会」という2団体と連携した活動を積極的に行っています。ただ参加するのではなく、行った先でいかに地域に入り込めるかを実習をする上で大切にしています。

■連携できるからこそ得られるものとは？！

地域の団体と関わることで、専門家もつ様々なスポーツの知識や技術、アイデアを自分たちの取り組みにも活かすことができます。また、連携先から見ても、大学生という若い世代が活動に参加することによって、これまでの活動や団体としての意識の継承も行うことができます。このWin-Winで双方に利益のある関係こそがコミュニティスポーツ実習の持つ強みだと言えます。

■コミュニケーションを欠かさない実習



2024.11.3 北九州健康ウォーク

実習生として外部の活動に参加する上で気を付けているのは「コミュニケーション」です。スポーツを通じた多世代交流の創り方を、学生だ

スポーツが学生をつなぐ

2024年度から、新たに「実習間交流会」を実施しています。これまでになかった地域創生学群にある実習同士のつながりの創造を目的としており、他実習からの学びや、実習内の悩みなどを解決する場としてコミュニティスポーツ実習が企画から運営まで行っています。この会では、学生自身が考案した、独自のスポーツを使った交流も行っています。



連携先・参加者の方に話を聞いてみました！

コミュニティスポーツ実習も関わっている「第62回北九州市民スポーツ大会」にて、参加者と連携先の方に、実習生の印象を伺うことができました。

◇連携先の方の声

団体の高齢化によって後継者が減る中、学生が活動に参加してくれることで、「参加者に楽しさを感じてもらおう」という自分たちの大切にしている意識を継承することができます。

◇参加者の方の声

イベントに参加したら、普段会えない学生と会うことができ、スポーツを通してお話できて嬉しいです。

広報実習生からひとこと

取材した中で一番に感じたのが、地域への密着度の高さです。企画運営はもちろん、イベント実施中の実習生の姿が印象に残っています。周囲の変化にすぐ気づき、声かけや実習生同士で連絡を取り合うなど、臨機応変の行動を起こせているのは、実習生が地域の方をよく見ているからだと思います。外部での学びを活かす新たに始まった学内活動にも期待したいですね。(広報実習 湯田)

幅広い世代をつなげる団地の救世主

●コミュニティソーシャルワーク (CSW) 実習とは？

地域に強いソーシャルワーカー*の育成を目的として、九州最大級の住宅団地である徳力団地をフィールドに地域のつながりを作る活動をしています。

子どもから高齢者まで多様な世代を対象としていますが、さらに高齢化が進む徳力団地では、福祉ニーズにおいて高齢者を対象とした支援に力を入れています。団地の自治会と連携し、戸別訪問、サロン活動（おしゃべりカフェ）、ふれあいバザーなどの活動に取り組んでいます。

※ソーシャルワーカーとは、福祉や医療などの分野で相談や支援を行う職業



2024.8.20 モノレール基地見学

特集！

小学生の居場所づくりを！？

■夏休みの課題を解決！

夏休みは、働き世代が増えている今、子どもの預け場所が見つからないという就労のハードルになっている側面があります。また、子どもにとっても、夏休みはうれしい反面、通学しなくなることで学習機会を持ってない、孤立して寂しい思いをするといった不安もあるなど、家庭内での悩み・課題がいつもより増えてしまう時期です。そんな課題を解決するため、夏休みに小学生を対象に行っているのが、ATB活動「A（遊ぼう）T（食べよう）B（勉強しよう）」の3つを合わせたCSW実習主催のイベントです。

■子どもたちが楽しめる内容を！

3日間にわたって開催されました。1日目は、『自分たちの住んでいる町とモノレールについて知ろう』というテーマで、A（遊ぼう）では、CSW生考案の北九州モノレールの駅名と周辺のなじみある場所をすぐろく化した『モノ鉄』で遊びました。T（食べよう）では、給食がなくなる夏休みの子どもたちのお昼ご飯を地域の方とCSW生で作って、子どもたちと一緒に食べました。



2024.8.20 モノ鉄の様子

B（勉強しよう）では、モノレール基地へ行き、モノレールの仕組みや工夫、日頃、間近では見られないタイヤの大きさなどに触れました。

スマホ講座も開催

講座では、スマホの使い方に不安がある方を対象に開催され、アプリのインストール方法や活用方法、災害情報の入手の仕方などを教えています。

スマホ講座の参加者にお話を伺ったところ、家族にスマホの操作について聞きたくても時間が取れなかったり、聞きづらいこともあったりするが、CSW実習生は、スマホ教室で細かなことまで教えてくれるし、雑談も含めて楽しいとおっしゃっていました。



地域の子どもたちに話を聞いてみました！

2024年のATB活動に参加してくれていた子どもたちに、ATBの中で一番面白かったこと、興味を持ったことについて聞くことができました！

◇夏休み1番の思い出に！

「モノ鉄で北九州の知っているところがたくさんあって楽しかったし、初めて会うお友達とも仲良くなれたのが良かった」「モノレール基地への見学で部品をたたくだけで部品が壊れているかを確認する人がすごいと思った」「昼ごはんが食べれてうれしい」など、遊べた！ご飯が食べられた！勉強になった！という声が多く聞け、3日間のATB活動は大成功だったのではないのでしょうか！

広報実習生からひとこと

CSW実習のATB活動の取材を通して、まず驚いたことがCSW生の小学生に対する気遣いと接し方です。話すときは目線を合わせたり、道路を歩くときはCSW生が散らばり安全を確保したりしていて簡単なことかもしれませんが、素晴らしいことだと感じました。今年もATB活動を軸に取材に行ってきました。また今後は違ったCSW実習の姿を皆様にお届けできるよう取材していきたいと思います。

(広報実習 高山)

大学生と小学生でミライを創造！

●スクールボランティア実習とは？

北九州市内の小学校2校と、支援学校1校の特別支援学級に入り、発達障害を抱える児童の学校生活をサポートしながら、障害分野と児童分野の福祉を学んでいます。具体的な活動としては、児童と学校生活を共に過ごし、学生と児童の間の信頼関係の構築を通して個別支援をすることです。実習生同士や小学校の先生たちとの情報共有の支援体制の強化を意識して活動しており、北九州市が実施している「子どものひまわり学習塾」の学生ボランティアとして定期的に放課後の小学校へ訪問し、子どもたちの学習支援も実施しています。



2024.11.6 大学探検中の様子

将来を見据えた学習！ ハタチミライブプロジェクト

■ハタチミライブプロジェクトの目的

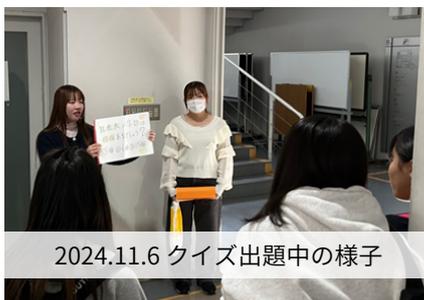
児童に普段過ごしている小学校とは違う環境である大学生活の一部を体験してもらい、小学校との違いや大学の雰囲気などを直接肌で感じてもらいます。児童が少し先の未来を考え、数年後の進路を想像するきっかけをつくるのが目的です。

■リハーサルを重ね、リスクマネジメント

ハタチミライブプロジェクトでは、昼食後に大学探検を行います。そのため、事前リハーサルで児童と歩いたりクイズを出題したりする中で、けがをしてしまう危険な箇所が無いかということを確認しています。歩くペースやクイズ出題の時間配分も考慮しながら、入念なりハーサルが行われていました。

■臨機応変な対応とコミュニケーション

空き時間や移動時間に児童と何気ない会話をするとも、児童の緊張や不安軽減に大きく影響すると感じました。ただ話を聞くだけでなく、大学生も小学生時代を思い出しながら楽しんで会話をする事ができていました。



2024.11.6 クイズ出題中の様子

授業時間についてのクイズが出題され、大学の授業時間は小学校の2倍あるということに児童たちが驚いていました。

日常的な学習支援

北九州市が実施している「子どものひまわり学習塾」という活動で、放課後等に小学校の教室を利用し、児童が授業で学習したことの復習などを、学習指導員の支援のもとに取り組んでいます。自主的な学習の支援を通じて、子どもたちが分かることの喜び、勉強の楽しさを味わうことで、児童生徒の学習習慣の定着と基礎的・基本的な学習内容の定着につなげます。



参加した小学生に話を聞いてみました！

ハタチミライブプロジェクトに参加してくれた小学6年生に、今回のイベントで印象に残ったことや驚いたことなどをインタビューすることができました！

◇大学は想像以上に広がった！

大学は、小学校と比べて教室も大きくて、食堂も広がったです。大学生になったら大学の中庭でお弁当を食べてみたいです！

◇食堂のご飯がおいしかった！

自分でメニューの中から食べるものを選ぶことができるのが楽しそうでした。小学校の給食もおいしいけど、大学の学食もおいしかったです！

広報実習生からひとこと

ハタチミライブプロジェクトは、入念な準備をして開催しています。小学生と同じ目線に立って、彼らの発言を尊重しつつも、時には一歩引いた目線からの発言をするなど教育に携わっているという自覚を持った行動を取っていたことが印象的でした。また、年代が違っても関わらず互いの共通点を見つけるなど、話しやすい雰囲気を作り、話を引き出すための力が鍛えられていると感じました。

(広報実習 北川)

住民との(協働)が街を創り出していく！

●ボン・ジョーノ実習とは？

地域の方と学生が協働して”住民さんのやりたいことを叶える”をコンセプトにして活動を行っています。活動内容としては、「TETTE会」（イベントの開催）、「わんぱく農園」（農業体験）、そして「わたぼうしの会」（子育て世代の交流）の3つがあります。

また、任意プロジェクトとして、「たべTETTE」の運営支援や緑の維持管理と交流活動を目的とする「お掃除ラボ」など、地域活動にも参加しています。

特集！

10月14日 開催

ハロウィンイベントに密着！！

■ハロウィン ボン・ジョーノ地区の恒例行事

10月14日に開催されたハロウィンイベントは、住民をつなぐことを目標にそれを形にするべく始まったイベントです。

その日、参加した子どもたちは、バック作りを楽しんでいました。そこで作ったバックを持って、ボン・ジョーノ地区を舞台にまちあるきも実施され、チェックポイントでは、お菓子の配布やハロウィンの歴史に関するクイズが出題されました。そのほかにも、毎回多くの参加者が仮装を楽しみながら参加しており、この日も約100人の参加者で賑わっていました。

■目的と目標を達成する企画を！

実習生は、参加者に楽しんでもらいつつも、自分たちの目的と目標を達成する企画を作り上げることを意識しています。例えば、今回のまちあるき企画は、子ども・住民さんと盛り上がり、家庭間交流や周辺施設との交流を促すというイベントの目的に加えて、ハロウィンの歴史を知ってもらうという目標の両方を達成するために考案されました。このように一つ一つの企画作りを大切に、イベントを実施しています。

■司会も自分たちで

このハロウィンのイベントだけではなく、まちあるきや工作などに加えて、司会進行も学生主体で行なっています。臨機応変な対応が求められる中で、参加者の顔を見ながら笑顔で司会を進めており、周り



2024.10.14 司会を頑張る実習生

の状況に合わせた対応をしていました。イベントでは、司会以外にも様々な仕事がありますが、全てをこなし、行動している実習生は改めて、すごいと感じました。



2024.10.14 工作を楽しむ参加者の様子

他にも色んな活動が！？

- TETTE会…偶数月は学生が、奇数月は住民さんが企画や運営をしています。
- わたぼうし…月に1回、子どもたちとの触れ合いを中心とした活動。双子のお子さんを持つ親向けの「ふたごの会」というイベントもしています。
- わんぱく農園…子どもが土に触れる体験を提供し、野菜作りを通じた活動をしています。



実習生に話を聞いてみました！

住民さんとの活動の中でどのようなやりがいや、学びが得られるのか、話を聞いてみました。

◇考えを伝えることが大切！

学生は自分の考えを相手に伝えないことで認識の違いが生まれるため、考えをしっかりと相手に伝えることを意識しています。また、住民さんと共に活動を作り上げていくからこそ、報告・連絡・相談が大切だと話していました。

◇たくさんの学びが潜んでいる！

イベントなどの達成感を味わえるだけでなく、住民さんとの関わりを通してコミュニケーション能力や広い視野を身に着けられるそうです。また、住民さんたちのアイデアには驚くこともあると話していました。

広報実習生からひとこと

イベントの時には、私といつも話している友達が大人との円滑なコミュニケーションや子どもとのふれあいなどを行っている実習中の姿を見ることができました。

また、イベント前は、学生が様々なリスクマネジメントや、住民さんとの定期的なミーティングなどを行い、住民さんとの緊密な連携を取っているからこそ、イベントや様々な活動がうまく回っているのではないかと感じました。

(広報実習 溝上)

魅力沢山な421Lab.を創る実習生すごい！

●421Lab.学生運営スタッフ実習とは？

地域社会における実践活動を通じ次世代を担う人材の育成を目指すとともに、本学の地域貢献活動の一翼を担うことを目的に設置された実習です。

具体的には、子ども食堂や地域美化・復興支援等、地域に根差した約20の学生プロジェクトが活動に取り組んでいます。これらのプロジェクトをサポートする組織として学生運営スタッフが存在します。



2025.2.9 地域活動発表会の実際の様子

2024年度地域活動発表会 全て学生が主催してらって 本当！？

■地域活動発表会ってなに？

421Lab.のプロジェクトに所属する学生に1年間の活動を振り返る場を提供し、改めて各プロジェクトの存在意義を高めることや、活動報告及び同窓会予算の使用報告を行う場となっています。今年度は発表部門とポスターセッション部門の2部門制で開催しました。

■発表は誰でも聞ける！

公式SNSやポスター等を通じて広報を行うことで、学生や関係する企業・団体だけでなく、地域の方にも足を運んでいただいています。

■実際の地域活動発表会の様子とは！

国際開発プロジェクトThaksinalはタイの「タクシン大学」の学生と協力しながら、大豆ミートを使ったソーセージ開発と商品化や、日泰両国でマーケティング調査などを行っています。その他にも「ポイ捨てはカッコ悪い」を広めることを目指している地域クリーンアッププロジェクトなど、多くのプロジェクトが壇上にあがり発表していました。

■さらに進化する2025年度の実習へ！

2024年度の経験と反省点を生かし、さらに進化するため2025年度は、「新たなことに挑戦しながら、一人一人が成長し、責任をもって行動する」ことを目標としているそうです！



2025.2.9 ポスターセッション部門の様子

実際のポスターセッション部門の様子です。421Lab.学生運営スタッフ実習の皆さんが案内してくださいました。

他学部と多く交流！？

地域創生学群の実習のほとんどは、学群生のみで構成されています。しかし、421Lab.は大学の公式機関であるため、他の実習と異なり、他学部生と共に活動に取り組みます。また、地域と北九大生を繋げるために、日々約20あるプロジェクトのサポートを行っている実習でもあります。



地域活動発表会で 学生に話を聞いてみた！

421Lab.の魅力や今後について学生と実習の担当教員に取材しました。

◇色々な人と交流できる！

他学部生や多くの企業の方と交流を行い、コミュニティの中で様々な価値観に触れられることが421Lab.の魅力の1つです。

◇どんどん進化して欲しい

現状に満足して欲しくないと感じています。今あるものが『1』とするならばそれらを『1』にといたようにどんどん進化して欲しいです。

広報実習生からひとこと

学生運営スタッフ全員で一丸となり、今回の地域活動発表会を作りあげているのがとてもひしひしと伝わってきました。円滑な進行をされる司会の方や、笑顔で案内して下さるスタッフの方など、学生運営スタッフの素晴らしさが感じられました。そんな皆さんが運営している421Lab.だからこそ、発表会でもあったように、所属している学生がのびのびと主体的にプロジェクトに取り組んでいるのだと強く感じました。(広報実習 土井)

あしがき

最後までご覧いただき
ありがとうございました。

地創新聞は
地域創生学群が
日々、地域の方々とともに
活動している様子を
多くの人に知っていただきたく
作成しました。

実習は決して楽しいこと
ばかりではありません。
辛いこと、大変なことを
地域の方々や仲間と同じ目標に向かって
頑張るからこそ
結果として楽しいのです。
今後とも地域創生学群について
関心を持っていただけると嬉しいです。

地域創生学群広報 一同

#なけれぼ つくれほよい

アンケートのご協力
をお願いします!!



九州国立大学
地域創生学群